



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第四二八号）

寒露 かんろう

十月八日

月を愛でる

秋の夜長の楽しみの一つに、月を愛でることがあります。

今年の十五夜（九月十七日）は、伊勢神宮外宮のまがたま池の舞台で行われた神宮観月会に行きました。昼間の残暑も夕方六時を過ぎるとおさまり、十五夜の月が上りました。すると池の面をわたった涼しい風が吹き渡りました。楽しみにしているのは神宮楽師がくしによる雅楽がくの演奏と舞楽ぶがくです。

今年は、舞姫二人による舞楽「常世の舞」が披露されました。「常世の舞」は平成五年の第六十一回神宮式年遷宮を寿ぎ、当時の久邇邦昭大宮司くにくにあきが作詞作曲したものに、元宮内庁の豊英秋主席ぶんのひであき楽長が作舞された歌舞です。

すっかり日が暮れた池面に浮かぶ舞台に、薄い藤色の千早ちはやを身に着けた舞姫が二人入り、舞が始まると、雅な雰囲気があたりを包みました。美しい月を観ながら、舞を楽しめるといふ贅沢な時間を堪能しました。

それにしても、久邇元大宮司の楽曲ということに驚きましたが、元大宮司は、学習院大学卒業後、武蔵野音楽大学作曲科をご卒業なさっており、小さい頃から音楽好きであったと知りました。この時に初めて舞楽の作曲をされたそうです。歌詞は一番から三番があり、一番は、『日本書紀』の「常世の浪の重浪しきなみの帰よする国なりうまし国」から始まっています。そして、二番には、遷宮の様子や感慨などがつづられています。

遠き昔に大神の 定めたまいし宮居みやいには また二十年めぐり来て
神代うつしの新宮に 遷りますこそ尊けれ

久しぶりに披露された「常世の舞」の歌詞からは、一三〇〇年の歴史を持つ神宮式年遷宮が巡り来て、大祭に臨まれた大宮司のお気持ち伝わってきました。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 伊勢おかげ嬉楽祭

「歌(うた)」の語源は一説によると「嬉(う)れし・楽(た)のし」とか。

おかげ横丁では、新嘗祭を奉祝して、伊勢の伝統音楽と、縁のアーティストが奏でるミュージックの出会い・共演のお祭りを、伊勢の神様に奉納いたします。

嬉しい気持ちと楽しい時間を神様に、そして全ての人に紡ぐおかげ横丁初の音楽フェスタ。伊勢の深秋の風に吹かれて心に染みるひとときをお過ごしください。

日 時／11月16日(土) 16:30～20:30(開場15:00)

場 所／おかげ横丁一帯

入場券／

【前売A】 5,000円 お楽しみ券(屋台・遊戯)1,500円分 + 嬉楽祭Tシャツ + ステッカー

【前売B】 3,000円 お楽しみ券(屋台・遊戯)1,500円分 + ステッカー

【当日券】 3,000円 お楽しみ券(屋台・遊戯)1,000円分 + ステッカー

※小学生以下入場無料

【チケットの取り扱い】

前売券／おかげ横丁オンラインショップ、おかげ横丁「おみやげや」、

チケットぴあ(Pコード:281302)

当日券／おかげ横丁「おみやげや」前 特別ブースにてお求めください。

五十鈴塾

○ 「王朝気分を楽しむ」～紫式部日記絵巻～

『源氏物語』の作者、紫式部の日記は中宮彰子(藤原道長の娘)に仕えた日々が知られる貴重な記録です。「紫式部日記絵巻」は鎌倉初期にその日記を絵巻にしたもの。

式部をはじめ大河ドラマに登場する人物などが描かれ大変興味深いです。この絵巻を手掛かりに平安中期以来、貴族に鑑賞された絵巻物の役割や魅力を紐解きます。

参加者には「紫式部日記絵巻」(モノクロ複製)を手に取り、王朝サロン気分を味わう体験も。

小さな画面に込められた豊かな世界に心遊ばせましょう。

日 時／10月17日(木) 13:30～15:00

場 所／五十鈴塾右王舎

講 師／岡野智子(細見美術館上席研究員)

参加費／ビジター 1,450円 会員 950円

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 五十鈴茶屋節気菓子

てり は
照 葉

木々の葉が黄色から朱色に変わり行く情景が伊勢路の山々でも見られるようになりました。粒餡の中に包んだ練り切りの紅葉をお楽しみ下さい。

な ごり づき
名 残 月

神域の夜空にぼっかり浮かんだ満月を、伊勢の人々は昔から愛でてきました。山羊と葛を合わせた生地で粒餡を包み、すすきの焼き印を押して名残月を表しました。

こす もす
秋 桜

白、薄紅、さんご色、コスモスが色とりどりに咲く伊勢志摩の秋。浮島の生地に葛寒天と羊羹を重ね、風の渡りに波打つコスモスの群れに似せました。